様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 6 月 26 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）
研究期間：2007～2008
課題番号：19860072
研究課題名（和文）　小規模生活単位型高齢者施設における空間構成と入居者の生活様態に関する研究
研究課題名（英文）　Study on spatial composition and residents' living aspects in the elderly care facilities with small group units

研究代表者
山田あすか（YAMADA　ASUKA）
立命館大学・理工学部・講師
研究者番号：80434710

研究成果の概要：
本研究課題では，認知症高齢者グループホーム，小規模生活単位型特別養護老人ホーム，小規模多機能型居宅介護事業所・宅老所をフィールドとして，これらの施設での空間構成，入居者の生活様態（滞在場所，交流の相手，滞在場所の移動），入居者の属性（性別，ADL・認知症の程度有無や程度等）との対応関係を明らかにし，こうした生活施設の空間構成についての考察を査読論文としてとりまとめ，発表した．

交付額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2007 年度 | 1,350,000 | 0 | 1,350,000 |
| 2008 年度 | 1,340,000 | 402,000 | 1,742,000 |
| | | | |
| | | | |
| 総　計 | 2,690,000 | 402,000 | 3,092,000 |

研究分野：工学
科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画
キーワード：高齢者、特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護、宅老所、空間構成、認知症、滞在様滞

１．研究開始当初の背景
１）本研究の社会的背景
従来の大規模な入所型施設の居住環境としての質への懸念，なんらかの障碍をもつ高齢者や家族の「普通の」暮らしへの切望から，近年の高齢者ケアの力点は在宅ケアや小規模な生活単位の施設ケアに移行している．こうしたケア拠点の例として，認知症高齢GHやユニット型特養は，小規模で家庭的な生活空間のなかで入居者が職員や他の入居者と安定的な人間関係を構築し，入居者一人ひとりを重視されるケアをめざすものとして制度化された．
２）本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ

GHについては，GHでの人間関係や職員の関わり方や共用空間が入居者の生活に与える影響[文1)]，「なじみ」の関係の構築による入居者の生活の変容と安定化[文2)]，などについての先行研究がある．ユニット型特養を対象とした研究動向としては，小規模な生活単位となることでの入居者同士の交流関係の活発化[文3)]など，生活単位の小規模化の効果が指摘される一方で，入居者の重度化によって入居者同士の交流関係が崩壊してしまうことなどが指摘されている[文4，5)]．また，認知症高齢者の生活環境に関する研究は海外でもなされており，生活の様々な場面の中で認知症高齢者の行為・行動を引き出すための「環境要素」の重要性や，施設空間構成の事例を示すなどしている[文6)]．

これら先行研究は，高齢者のための小規模な生活空間の効果とそのなかでの入居者の生活様態を報告し，また認知症高齢者の生活環境のなかの環境要素の重要性を指摘している．しかし，施設の様々な空間構成が入居者の生活にどのような影響を与えているか，空間構成の異なる施設で入居者の生活が具体的にどのように異なるのかについては明確な検証がなされていない．

文１）石井敏：生活行動に影響を与える環境構成要素に関する研究　グループホームにおける痴呆性高齢者の分析，東京大学学位請求論文，2001.03

文２）厳爽，石井敏，外山義，橘弘志，長澤泰：グループホームにおける空間利用の時系列的変化に関する考察　-「なじみ」からみた痴呆性高齢者のケア環境に関する研究（その１），日本建築学会計画系論文集　第523号，P.155，1999.09，介護体制と入居者の生活構成の関わりに関する考察　-「なじみ」からみた痴呆性高齢者のケア環境に関する研究（その２），日本建築学会計画系論文集　第528号，P.111，2000.02 ，など

文３）松原茂樹，足立　啓，赤木徹也，舟橋國男，隼田尚彦，鈴木　毅，木多道宏：会話状況からみる痴呆性高齢者の交流の変容に関する考察　-痴呆性高齢者のグループリビングへの移行に関する研究，日本建築学会計画系論文集　NO.545，P.137，2001.07

文４）芦沢由紀，竹宮健司，上野　淳：個室型特別養護老人ホームにおける入居者の生活様態とその変容に関する考察，日本建築学会計画系論文集　NO.568，P.25，2003.06

文５）芦沢由紀，上野　淳：個室型特別養護老人ホームにおける入居者の自立能力の変化と居室利用の変遷に関する考察，日本建築学会計画系論文集　NO.600，P.17，2006.02

文６）ユリエル・コーヘン，ジェラルド・D・ワイズマン，岡田威海（監訳），浜崎裕子（訳）：老人性痴呆症のための環境デザイン，彰国社，1995

## ２．研究の目的

本研究課題では，入居者の要介護度，認知症の有無と程度，ADL やスタッフの配置，運営の在り方などを含めた総合的な視点から検討を加えつつ，入居者がどこで、だれと、なにをしているか，という入居者の生活様態と施設の空間構成との関係を明らかにすることを目的とする．このための具体的な課題として，以下３点を設定する．

１）GHにおける空間構成と生活様態との関係の解明：GHの空間構成を類型化し、異なる空間構成を持つGHでの調査結果の比較によって、スタッフからの誘導、入居者の属性などを勘案しながら空間構成と入居者の生活様態との関係を明らかにする。

２）ユニット型特養における空間構成と生活様態との関係の解明：１）と同様、ユニット型特養の空間構成を類型化し、異なる空間構成を持つGHでの調査結果の比較によって、スタッフからの誘導、入居者の属性などを勘案しながら空間構成と入居者の生活様態との関係を明らかにする。

３）小規模生活単位型高齢者施設での空間構成と入居者の滞在様態の関係の考察：施設類型の垣根を越えて，小規模な生活単位で運営される高齢者施設での空間構成と入居者の生活様態との関係を明らかにし，高齢者施設の計画に資する知見を得る．

## ３．研究の方法

本研究では，空間構成の異なるグループホームとユニット型特養を対象として，参与観察調査を主体とした継続的な調査を行い，入居者の生活様態と施設の空間構成の関係を

明らかにし，またこれらをもとに小規模生活単位型高齢者施設の計画指針について考察する．考察にあたっては，入居者の属性，他の入居者の居合わせやスタッフの誘導などの人的要素，日々の生活様態の反復性に着目する．また，入居者の属性の変容による生活様態の変容と空間構成の関係について考察し，経時的な変容に空間構成が及ぼす影響についても把握する．さらに，小規模生活単位高齢者施設の空間構成を主とした建築計画について考究する．

４．研究成果

本研究期間において，ユニット型特養における入居者の生活様態（滞在場所，交流の相手，滞在場所の移動）と施設の空間構成の関係，宅老所・小規模多機能居宅介護事業所における利用者の滞在場所，ADL・認知症の程度，事業所の空間構成の関係について分析し，査読論文としてとりまとめ，発表した．

これらの論文の中で，空間は，ケア態勢と連動することが確認された．そして，空間とケアの条件が，入居者の生活範囲や交流範囲をある面で規定することが本研究によって明らかになった．このことは，入居者のADLが重篤化に向かうなか，小規模生活単位における入居者の生活の安定性を示すと同時に，交流相手や行動範囲を限定しがちになるという閉塞性をも含蓄するものと考える．今後，小規模生活単位型の高齢者施設を計画するに際し，こうした空間による入居者の生活のあり方への影響を充分考慮する必要がある．

宅老所・小規模多機能型居宅介護事業所における調査・分析においては，従来の大規模デイサービスでの一斉処遇とは異なり，活動場所，活動場面，集団の規模が多様で，異なる場面の並存的な展開がみられる点に小規模高齢者介護施設の特徴があることを発見した．また，こうした特徴を活かすに際し，活動に対応した場が必要数あることや，滞在できる空間や場が分節された構成であると利用者個々のペースや利用者同士の相性に即して滞在場所を選択でき，多様で自由な滞在様態が展開しやすいことなどを指摘した．

なお，グループホームの空間構成と入居者の滞在様態，その反復性に着目した調査・分析を継続して行っており，査読論文集への投稿を予定している．

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4　件）

① 山田あすか，濱洋子，上野淳：小規模生活単位型特別養護老人ホームにおける空間構成と入居者の生活様態の関係，日本建築学会計画系論文集、No.629，pp.1477-1484，2008.07
査読有

② 井村理恵，山田あすか，松本真澄，上野淳：通所を基本とする小規模高齢者介護施設の現状，利用者の滞在様態と空間構成に関する研究，日本建築学会計画系論文集、No.632，pp.2091-2098，2008.10
査読有

③ 山田あすか，佐藤栄治：小規模高齢者介護施設の運営様態とニーズの地域差に関する研究，日本建築学会計画系論文集 No.633，pp.2355-2363，2008.11
査読有

④ 山田あすか：民家改修型認知症高齢者グループホームにおける空間構成と入居者の滞在場所に関する研究，日本建築学会計画系論文集　第 74 巻　第 638 号，pp.781-790，2009.04
査読有

〔学会発表〕（計　2　件）

① 山田あすか・井村理恵・松本真澄・上野淳：アンケート・ヒアリング調査にみる小規模高齢者介護施設の運営・利用の状況　通所を基本とする小規模高齢者介護施設の建築計画に関する研究 その1，日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1分冊，p.279，2007年8月、福岡県

② 井村理恵・山田あすか・松本真澄・上野淳：小規模高齢者介護施設における生活展開と利用者の滞在様態　通所を基本とする小規模高齢者介護施設の建築計画に関する研究　その2，日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1分冊，p.281，2007年8月、福岡県

６．研究組織

(1)研究代表者

山田あすか（YAMADA　ASUKA）
立命館大学・理工学部・講師
研究者番号：80434710